

私の一文字

繫

観光再生戦略委員会 委員長
伊達 美和子

森トラスト
取締役社長



未来へ「繫ぐ」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、伊達美和子観光再生戦略委員会委員長にご登場いただきました。

岡西 今回、伊達さんから「繫」の一文字を選定いただき、どのような理由で選ばれたのかと思いを馳せながら習作を重ねるうち、気合が入り過ぎてどんどんサイズが大きくなりました(笑)。

伊達 私も「おお、力強いな」と驚きました。「繫」を選んだ理由の一つは、創業家として先代からの思いを将来にどう「繫ぐ」かという視点です。もう一つは、われわれの事業に対する思いです。不動産開発事業ではその土地の地歴を調べ、ポテンシャルを引き出し、将来のエリアのあるべき姿を考えます。過去の歴史を繋ぎ合わせ、それを表現し、未来にバトンタッチするのが私の仕事だと考えたからです。

岡西 「繫」の最後の2画は、過去から未来へという思いを込めました。

伊達 なるほど。実は私は漢字に思い入れがあり、当社独自ブランドのホテル名には、コンセプトを表現する漢字を付けています。特に、左右非対称で流れのある字が好きなので、岡西さんの書の「糸」の部分にボン、ボンと乗った二つの点、これに過去から未来へ繫ぐという躍動的な意味を込めたとおっしゃっていただき、非常に興味深いです。

岡西 ありがとうございます。さて、伊達さんは小学生のころから、お父さまのホテル事業の話面白く感じ、そこ

から興味を持たれたと伺っていますが。

伊達 父から言われたことですが、社会というのは学校の勉強と違い、最初から正解があるわけではなく、事象をどう見るのか、そしてどう正解に導くかは自分次第だと。よって、未来は前例から生まれるのではなく、やり切る力や信念を持って創り出すものだ。過去から未来を繫ぐには、力強さが必要だとつくづく思います。

岡西 経済同友会では観光再生戦略委員会を率いていらっしゃいますが、今年後半からの観光事業のポイント、決意などは。コロナ禍で苦しい時期が続いています。

伊達 今の状況が変われば確実に需要が復活する産業なので、あまり動じないようと思っています。一方で、コロナ禍で人手不足になっており、需要があっても供給できる体制を維持するのが難しくなっています。もともと観光業の課題であった生産性をどう改善するかが重要で、デジタルトランスフォーメーション(DX)もうまく推進してサービスのあり方を変えるところまで踏み込み、未来に備えることが必要だと思います。

岡西 4月27日の総会で副代表幹事に就任されますが、抱負は。

伊達 「繫」という字を選ぶにあたって、われわれの事業だけでなく、経済や社会を将来のために良い形で残す重責があることを再認識しました。経済界の立場で活動するにあたっては、社会全体を考え皆さんと共有しながら進めていきたい。「未来づくり」は経済同友会が重視しているキーワードでもあり、それに向けて微力ながら取り組んでいきたいと思っています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

